

令和4年度  
沖縄振興特別推進交付金

# 普天間飛行場跡地利用計画策定調査業務委託 報告書（概要版）

令和5年3月  
沖縄県  
宜野湾市



## 1. 目的

令和3年度に作成した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）（委員会案）」をもとに、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」と整合を図ると共に、沖縄県及び宜野湾市の関係部局の意見を反映し、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の策定支援を行った。また、「行程計画（更新案）」の見直し検討及び有識者への意見聴取、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」策定の報告を行う「普天間飛行場跡地利用推進会議」の開催補助を行った。

## 2. 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」策定支援

「全体計画の中間取りまとめ」の策定以降、検討の深化に伴う計画条件の更新や広域都市基盤に関する検討の進展により、「全体計画の中間取りまとめ」で示した計画条件から変更が生じている。そこで、返還等の見通しや、文献調査等による現況の詳細把握、有識者検討会議、県民・市民等の意見、関連計画の進捗等の「全体計画の中間取りまとめ」以降の検討経過、社会状況等の変化を踏まえ、令和3年度に「全体計画の中間取りまとめ（第2回）（委員会案）」が作成された。

今年度においては、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）（委員会案）」をもとに、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」との整合及び関係部局への意見照会を行い、令和4年7月に沖縄県及び宜野湾市が「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を策定した。

### 【「全体計画の中間取りまとめ」からの主な更新内容】

#### II 跡地の将来像

- ・時間が経過しても変わらない大きな方向として「II 跡地の将来像」を新たに構成。
- ・今後の計画内容の具体化に取り組む上で基底となる将来像（世界に誇れる優れた環境の創造）を明確化し、時間が経過しても変わらない視点を「揺るぎないまちづくりの方向性」として明示。

#### III 計画づくりの方針

##### III-1 環境づくりの方針

- ・跡地の将来像である「みどりの中のまちづくり」の中核を成す区域を大規模公園エリアとし、新たな価値観の下での大規模公園と都市的土地利用が融合するまちの創造への挑戦を推進することを位置づけ。

##### III-2 土地利用及び機能導入の方針

- ・大規模公園エリアの中核として、沖縄振興の推進や多元的な価値創造の象徴となる「沖縄振興コア」を形成することを位置づけ。

#### IV 空間構成の方針

- ・活用すべき自然・歴史特性（歴史・緑・地形・水）の確保を最優先に配置するとして計画条件を更新。
- ・上記の計画条件の更新を「配置方針・配置方針図」に反映。
- ・鉄軌道は中部縦貫道路との一体型を想定し、導出部については国道58号への合流を想定したルートに更新。

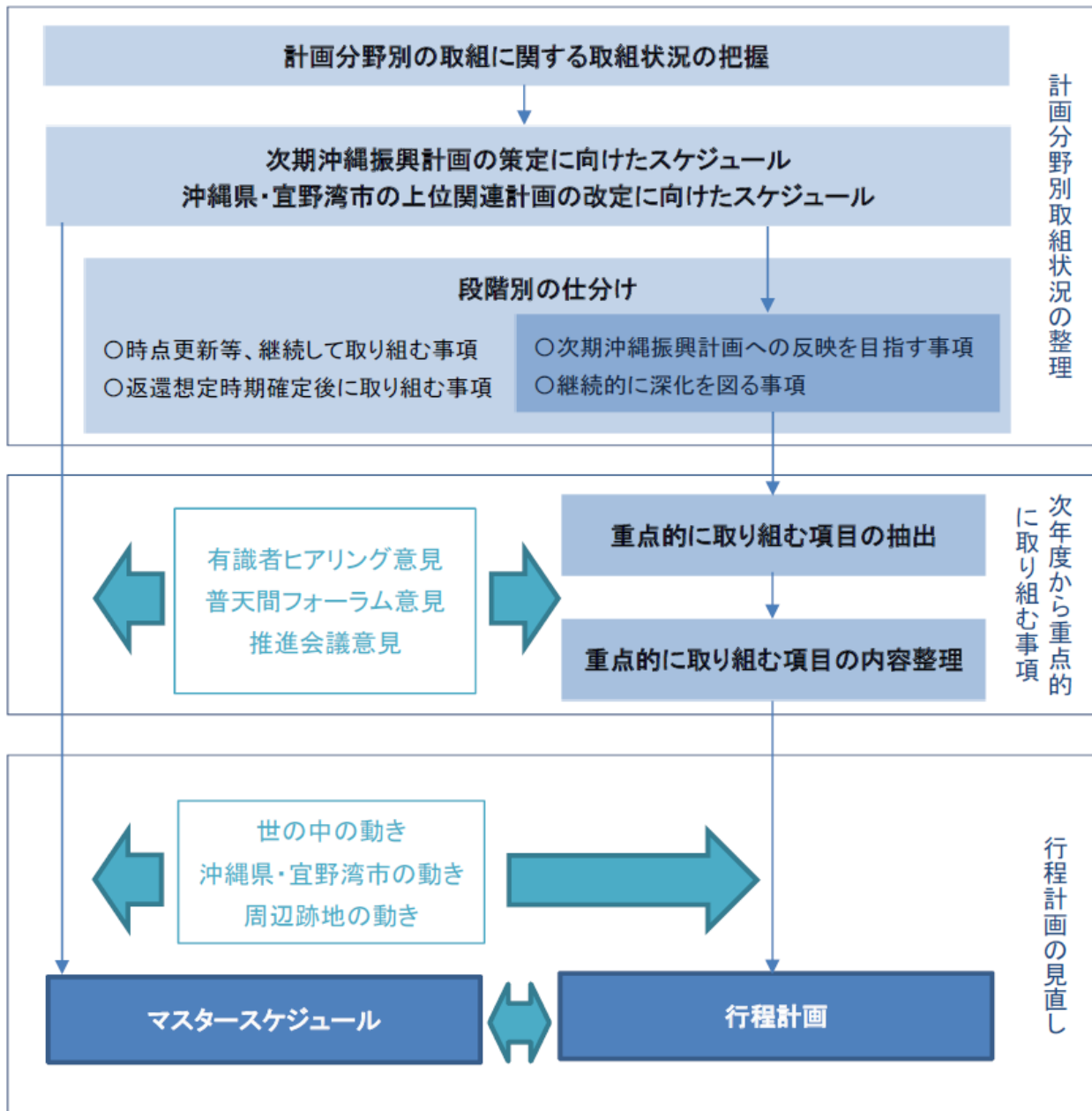
#### V 今後の取組内容と手順

- ・「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」以降の「計画内容の具体化」段階の取組方針として「跡地整備の実現に向けたしくみづくり」を追加し、主要な取組の内容や手順を明示。

### 3. 「行程計画」の見直し検討

行程計画の見直しにあたっては、次期沖縄振興計画への反映を目指すことから、概ね 10 年間の検討項目・手順を整理する。検討項目は、計画分野別の取組に関する取組状況を整理した上で、「次期沖縄振興計画への反映を目指す事項」、「継続的に深化を図る事項」、「時点更新等、継続して取り組む事項」、「返還想定時期確定後に取り組む事項」に分類し、「次期沖縄振興計画への反映を目指す事項」及び「継続的に深化を図る事項」を重点的に取り組む項目として抽出し、有識者意見聴取等を踏まえて取組事項を具体的に検討し、年度別の手順を示した。

上記の見直しにあたっては、世の中の動きや今後想定される上位計画の改定のスケジュール、跡地を取り巻く状況と当地区の関連性を整理したマスタースケジュールを作成し、マスタースケジュールを念頭に置きながら検討するものとする。

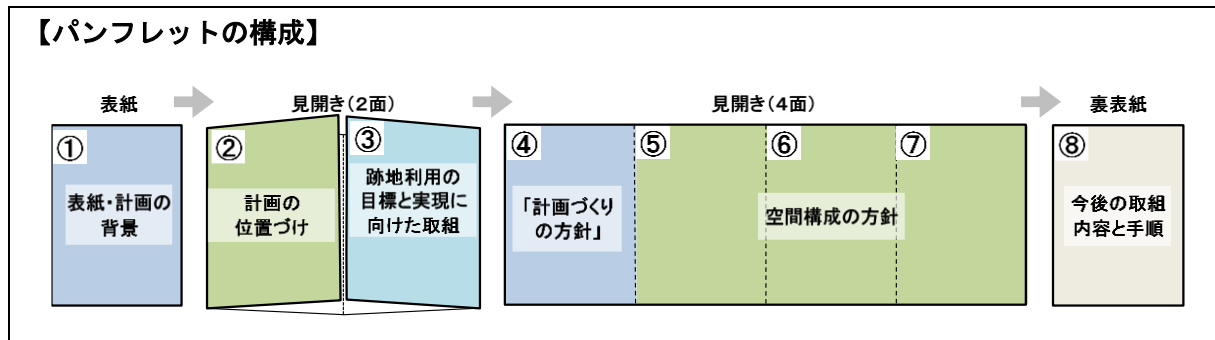


#### 4. 合意形成や情報発信に向けた取組み

##### (1) 全体計画の中間取りまとめ（第2回）説明ツールの制作

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を県民・市民・地権者等へ広く情報発信をするためのツールとして、大人向けパネル、子ども向けパネルの2パターンを制作した。

また、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を県民市民及び地権者に周知するための資料としてパンフレットを制作した。



##### (2) 県民フォーラム等の企画・開催運営

普天間飛行場跡地利用県民フォーラムを開催し、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」及び普天間飛行場跡地利用に向けた取組内容を県内外に広く合意形成・情報発信を行った。

県民フォーラムでは基調講演・パネルディスカッションの他、同会場にて「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」に関するパネル展を同日に開催した。

**【開催日及び開催場所】**

開催日：令和4年11月5日（土） 14：00～16：10（基調講演・パネルディスカッション）  
11：00～17：30（パネル展）

場 所：沖縄コンベンションセンター会議棟A1（基調講演・パネルディスカッション）  
会議棟A2（パネル展）

**【プログラム】**

第1部：基調講演「沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用に向けて」  
第2部：パネルディスカッション「魅力的なまちを私たちの手で育てていくには」



##### (3) ホームページの更新

計画内容の更新、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行った。

**【更新項目】**

- ・「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」/PVの反映
- ・イベント開催報告（普天間飛行場跡地利用県民フォーラム）
- ・海外視察の結果報告

## 5. 普天間飛行場跡地利用推進会議の開催補助

### (1) 目的

令和4年7月に沖縄県及び宜野湾市が策定した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の報告と跡地利用計画策定に向けた取組の進捗状況報告のため、沖縄県及び宜野湾市が主催する「普天間飛行場跡地利用推進会議」の開催補助を行った。

推進会議は、平成27年設立の普天間飛行場跡地利用計画策定全体会議を前身に、有識者や各種団体代表、市民代表等を委員として、計画への理解促進や考え方の共有化を図り、幅広く意見聴取を行うとともに、跡地利用に関する気運醸成に繋げることを目的としている。

### (2) 開催概要

#### 【開催日及び開催場所】

開催日：令和4年10月27日（木） 9：30～12：00

場 所：P's square 5階会議室

#### 【報告及び意見交換概要】

- ① 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けたこれまでの経緯について
- ② 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」策定について
- ③ 今後の取組について
- ④ 「計画内容の具体化」に向けた継続的な取組について

## 6. 有識者への意見聴取

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の「計画内容の具体化」に示された取組のうち、早期に着手することが望ましいもの及び跡地利用に関する新たな視点の提供可能性を勘案し、対象候補を抽出したうえで、有識者の選定を行った。

有識者の選定にあたっては、今後の跡地利用を検討する際に重要となる項目について、国の有識者会議等の委員または同分野の研究業績を有し、中長期的に跡地利用に関する検討への参画が期待できる有識者を抽出した。具体的な選定は発注者と協議のうえ、決定した。

計画内容の具体化に関する項目	概要	対象者	実施日
(1) 全体の戦略づくり・国家プロジェクト導入	・跡地整備の実現（国家プロジェクトの導入）に向けたしくみづくり	岸井 隆幸 ・日本大学 理工学部 特任教授	・令和4年12月16日 ・令和5年2月1日
(2) SDGs・カーボンニュートラルなまちづくり	・世界に誇れる優れた環境の創造に資する都市政策のあり方	真喜屋 美樹 ・沖縄持続的発展研究所 所長 蟹江 憲史 ・SDGs未来都市と官民連携プラットフォーム 幹事	・令和4年12月8日 ・令和4年12月16日
(3) グリーンインフラの実装	・グリーンインフラを実装した戦略的な緑化の進め方	上野 裕介 ・グリーンインフラ官民連携プラットフォーム 技術部会分科会長	・令和4年12月2日
(4) 産業集積・研究開発	・次世代を担う持続可能な産業の振興に資する産業誘致等の考え方	担当部長 ・県内投資会社 ギル・グラノット・マイヤー ・沖縄科学技術大学院大学首席副学長（技術開発イノベーション担当）	・令和4年12月6日 ・令和4年12月8日
(5) 公共交通指向型開発	・次世代都市交通システムを踏まえた地域公共交通のあり方	小島 肇 ・琉球大学 地域連携推進機構 准教授	・令和4年12月8日 ・令和5年3月2日
(6) 琉球石灰岩層上のまちづくり	・琉球石灰岩層といった特殊な地質上部のまちづくりのあり方	伊東 孝 ・琉球大学 工学部 教授	・令和4年12月6日 ・令和5年2月22日

## 7. 海外の現地調査を踏まえた先進事例調査

### (1) 目的

環境づくりやインフラ整備が最先端の産業誘致等に成功し、地域の価値や魅力を高めている海外の先進事例を研究し、普天間飛行場跡地にあるべき環境づくり、クラスター形成等によるまちづくりのあり方について、各種文献調査及び現地調査（ヒアリング含む）を実施し、「普天間飛行場跡地利用へ適用すべき事項」の参考となる事項を整理した。

※ソフィア・アンティポリス周辺には、2015年に訪問し、その創造的な環境整備や都市整備の理念及び実践の状況を視察した。今回は、前回調査以降、世界的な潮流となる自然環境を活かした持続可能なまちづくりやSDGsの実践について、ソフィア・アンティポリスにおける豊かな環境下における創造的な暮らしや研究活動・産業振興の効果を視察した。

### (2) 視察先概要

調査対象	事業概要
ソフィア・アンティポリス ＜フランス＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、化学、生命科学、環境など多様な分野の研究開発拠点（国家プロジェクト）。</li> <li>・約2,400haを有する国が推進するイノベーション拠点（1969年設置）。</li> <li>・企業・研究所数2,230（うち外資224）、拠点内人口3万6,300人（施設・企業の従業員と研究者4,000人、学生5,000人）。</li> <li>・革新的な能力を維持・統合しつつ、ビジネス競争力と魅力を維持できるよう、2040年に向けた「ソフィア2040」プロジェクトが進行中。</li> </ul>
エコ・バレー ＜フランス＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全と経済が調和した開発計画（国家プロジェクト（OIN））として推進（2003年～）。</li> <li>・事業区域：10,000ha、計画人口：122,800人、雇用：60,000人。</li> <li>・開発用地が少ない既成市街地以外での事業区域を設定。</li> <li>・事業区域内で、8つの重点プロジェクトを定め、事業者選定後事業化（重点エリア：200ha）。</li> <li>・空港隣接の立地性を活かしたニース市内の機能再配置も同時に実施（新市街地の展示場（1984年建設）を本地区で再整備）。現在各重点プロジェクトの整備が進行中。</li> </ul>